

「東松島市地域公共交通網形成計画」の策定に関するパブリックコメント結果について

番号	パブリックコメント内容	回 答
1	<p>小野地域は急速に過疎化・高齢化が進んでおり、小野地域住民アンケートの結果、交通に対する要望が買い物に次いで多かった。</p> <p>・デマンドタクシーらくらく号について</p> <p>小野地域の登録者は約 1,000 人であり市内でも多い。そのうち 53%が 70 歳以上を占めており、セフティネットとなっている。</p> <p>デマンドタクシーに対する意見・要望</p> <p>① 乗車券（チケット）販売所が少ないので増やしてもらいたい。（販売所までらくらく号が必要）</p> <p>② 乗車券販売所がどこにあるかわからない、PR 不足である。</p> <p>③ 土日に使えないので不便、土日も運行してもらいたい。</p> <p>④ 荷物を運べないので買い物に不便</p> <p>・無料循環バスについて</p> <p>有料でもいいから継続してほしい。</p> <p>今後、国の予算が半減する等、予算も厳しくなるが交通は最優先課題と考えます。</p>	<p>らくらく号の見直し・再編の検討に際しては、地区ごとに異なる特性・移動需要・需要総量を踏まえ再編方針を設定し、実態に適した効率的な運行体系の構築を図るものとします。</p> <p>誰でも安心して公共交通を利用するための情報提供として、市全体の公共交通のマップ作成やわかりやすい案内・標識等の整備、広報誌や回覧板を利用することにより公共交通情報を周知・PR を図ってまいります。</p> <p>震災無料循環バス・らくらく号における運行体系の再編に伴い、更なる利便性の向上に向けて利用実態や住民ニーズ、まちづくり施策の展開等を踏まえ、停車箇所や運行日・運行ダイヤを見直します。また、運賃体系においても見直し、一定の受益者負担のもと、持続可能な公共交通の運営体制を構築するものとします。</p> <p>本市の公共交通を維持・確保する上で重要な財源であります、国の復興交付金や地域公共交通確保維持改善事業補助金等は復興の進捗とともに終了することから、運行を支える財政状況は厳しさを増すことが予想されます。高齢者の増加に伴い、公共交通に対する需要は高まっていくものと考えられる中、地域の「足」として将来的に持続可能な交通体系を再構築するには、行政・交通事業者だけではなく、企業や市民等と一体となった運営体制の構築が必要と考えます。</p>
2	<p>初めて東松島市地域公共交通活性化協議会のメンバーになりました。平成 21 年 7 月にデマンド型タクシーの運行開始以来 8 年が経過したことになると思います。また、協議会において慕われる運行を目指し改善をはかってきたと思います。</p> <p>東松島市地域公共交通網形成計画（案）を一通り読ませていただきました。素晴らしい内容だと思います。だが、乗り物に乗るといことは楽しく利用することも一理あるのではないのでしょうか。この案にはそういう箇所が見当たらない。遠路の交通手段の確保ということでは理解できます。幼</p>	<p>らくらく号の利用者は平成 25 年 11 月に 10 万人を記録し、平成 29 年 7 月現在延べ利用者 18 万 7,259 人となり、今年度中に 20 万人に達する見込みです。</p> <p>市民の外出の機会が増えるような、外出が楽しくなるような便利な公共交通を目指していきます。車内での情報発信について、公共交通を利用するきっかけとなるようご提案いただいた内容を検討させていただきます。また、観光客の移動手段を確保し快適に過ごしてもらえるような交通を検討します。</p> <p>車両については、今後高齢化が進む中で、高齢者が利用を敬遠することなく利用する環境を構築するため、新たに車両を導入する際には、バリアフリー・</p>

<p>稚園バスにキャラクターが描かれ、待ちわびる様子は微笑ましく感じます。ここで提言、成人用デマンド型タクシーとしてレトロバスの車両を活用できないか。また、市外からくる観光客のバスとしてもイメージアップに繋がるものと思います。さらに、一例として車内で朗読ボランティア「G・うさぎ」が読み聞かせ用として作成している市報ひがしまつしまを情報提供として放送する。高齢者にとっては目で見える情報よりも耳で得る情報が容易と考えます。</p> <p>交通弱者に対する施策は延々と続くものと思いますので効率的な運行計画と合わせて思い切った対応を期待します。</p>	<p>ユニバーサルデザイン（高齢者・車いす使用者・ベビーカー利用・妊娠中の方など誰もが利用しやすい、みんなにやさしい新しいタクシー車両）に対応した車両の導入を推進します。</p> <p>地域と人を交通で繋ぎ「まち」を一つにする交通体系を構築します。</p>
<p>3</p> <p>公共交通があることを知らない、知っていても乗り方（チケットの販売店・予約の仕方）がわからず利用していないという声を耳にしました。高齢者にもわかりやすく啓蒙する必要があると思われまます。</p> <p>震災無料循環バスについて、定路線型運行に転換、有償に切り替えることに賛成です。</p> <p>中心市街地で、予約型と定路線型の併設運行とのことですが、指定停留所については、これまでの利用者の状況と地区民の意見を十分に取り入れていただくよう希望。</p> <p>公共交通の不便さで、外出の機会が減少することにより買い物不便から栄養不足に、高齢者の閉じこもりにもつながりかねず、玄関から玄関への「らくらく号」は必須と考えます。1便当たり1.6人としても1日100人ちかい利用者があり、工夫すればもっと増えるはず。さらには休日の運行もあれば……。一利用者として思うところです。</p>	<p>公共交通の情報が住民にしっかり周知されるように、公共交通情報が記載されたマップや冊子等のツール提供や説明会を実施し、公共交通に対する不安を解消し、安心して利用できる環境を構築します。</p> <p>仮設入居者退去に伴い、運行を終了する震災無料循環バスは、らくらく号との統合により定路線型有償運行への切り替えを検討するとともに運行経路・区域等の見直しを図ります。見直し・再編の検討に際しては、地区ごとの異なる特性・移動需要・需要総量を踏まえ、地区別に再編方針を設定し、実態に適した効率的な運行体系の構築を図ります。また、現状の運行時間帯を見直し、日常生活の移動実態に適した運行体系を検討します。</p>